

第1章 改定の趣旨

1-1 改定の経緯

本市の下水道事業は、昭和34年に事業認可を受け、都市の健全な発達、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全を目的とし、汚水と雨水を別々の系統で排除する分流式により事業を推進してきました。昭和41年には小田原駅周辺の中心市街地の汚水処理を、昭和57年には酒匂川左岸処理区、昭和63年には酒匂川右岸処理区の汚水処理を開始しました。

下水道事業開始当初には公共下水道の普及促進による公衆衛生の向上が急務とされていましたが、概ね50年が経過した平成20年代には、老朽化した施設の改築・更新、人口減少下における安定的経営の必要性など、下水道事業を取り巻く新たな課題への対応が求められるようになりました。そこで、計画的な事業実施に向けて、平成23年10月に「小田原市下水道中期ビジョン」（以下、「前ビジョン」）を策定し、下水道事業の目指す姿及びこれら課題に対応するための施策体系を示して各事業に取り組んできました。

また、国土交通省では、平成26年7月に「新下水道ビジョン」を策定し、「持続的発展が可能な社会の構築に貢献」することを新たな下水道の使命として示しました。

「おだわら下水道ビジョン」は前ビジョン策定から概ね10年が経過しており、下水道を取り巻く昨今の情勢や将来の事業環境を踏まえ、下水道が果たすべき役割や目指すべき方向性、課題解決のための施策を掲げ、持続可能な下水道事業の実施に向けて改定するものです。

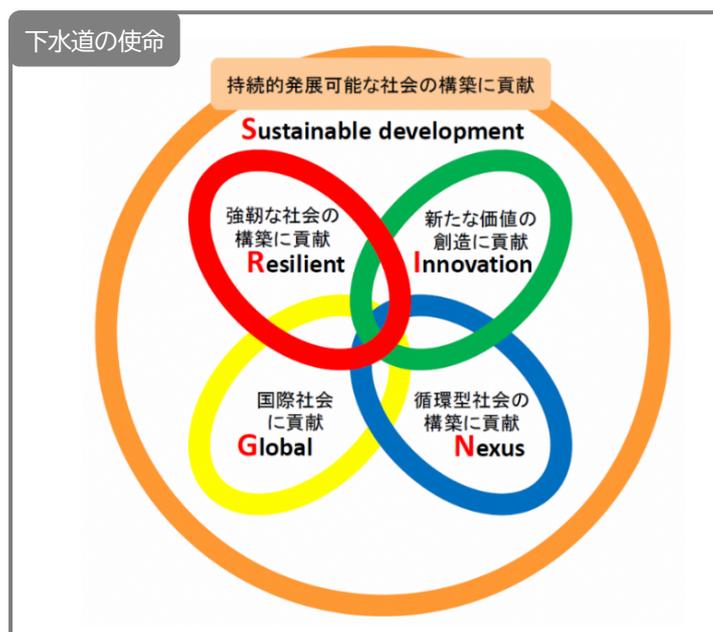


図 1-1 「新下水道ビジョン」における下水道の使命
(出典:国土交通省「新下水道ビジョン」)

1-2 おだわら下水道ビジョンの位置付け

1. 関連する計画

「おだわら下水道ビジョン」は、下水道における根拠法令である下水道法と都市計画法を基本とし、市の上位計画である第6次小田原市総合計画「2030 ロードマップ 1.0」や国及び県の各計画に即すとともに、「小田原市下水道ストックマネジメント計画」及び「小田原市下水道事業経営戦略」と整合を図り、改定するものです。

「おだわら下水道ビジョン」の計画期間は令和4年度から令和13年度の10年間とし、社会情勢などの変化に対応するため、適宜、必要な見直しを図る予定です。

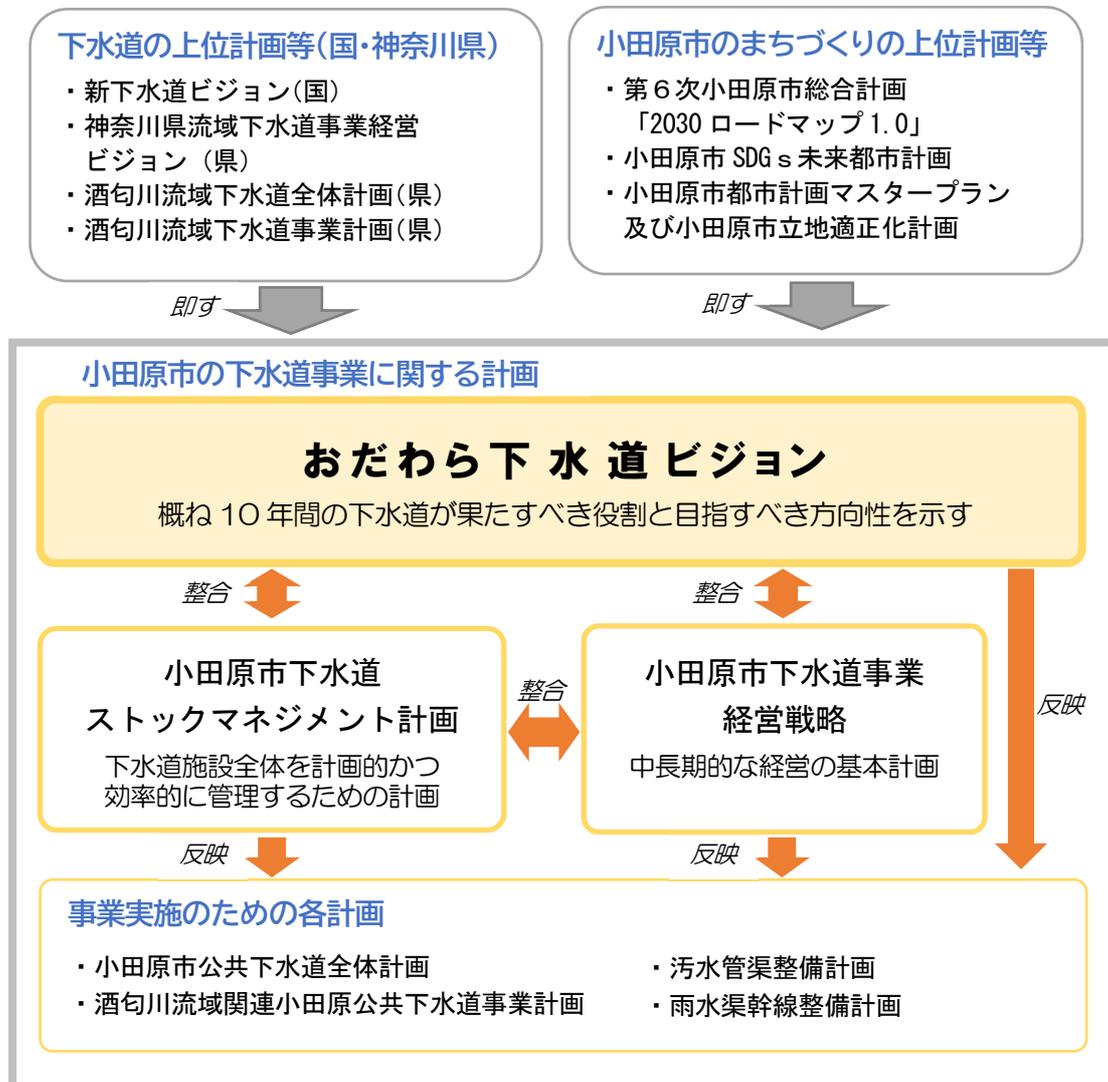


図 1-2 「おだわら下水道ビジョン」の位置付け

2. 第6次小田原市総合計画とSDGsにおける位置付け

第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」は、2030年に目指す小田原市の姿とその実現に向けた取組を総合的にまとめたもので、計画期間を令和4年度～令和12年度の9年間としています。

第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」では、将来都市像として「世界が憧れるまち“小田原”」を掲げ、その実現に向け、SDGsの視点を踏まえつつ、「生活の質の向上」、「地域経済の好循環」、「豊かな環境の継承」の3つをまちづくりの目標に定め、行政経営、公民連携・若者女性活躍、デジタルまちづくりを推進エンジンとしてまちづくりを進めていきます。

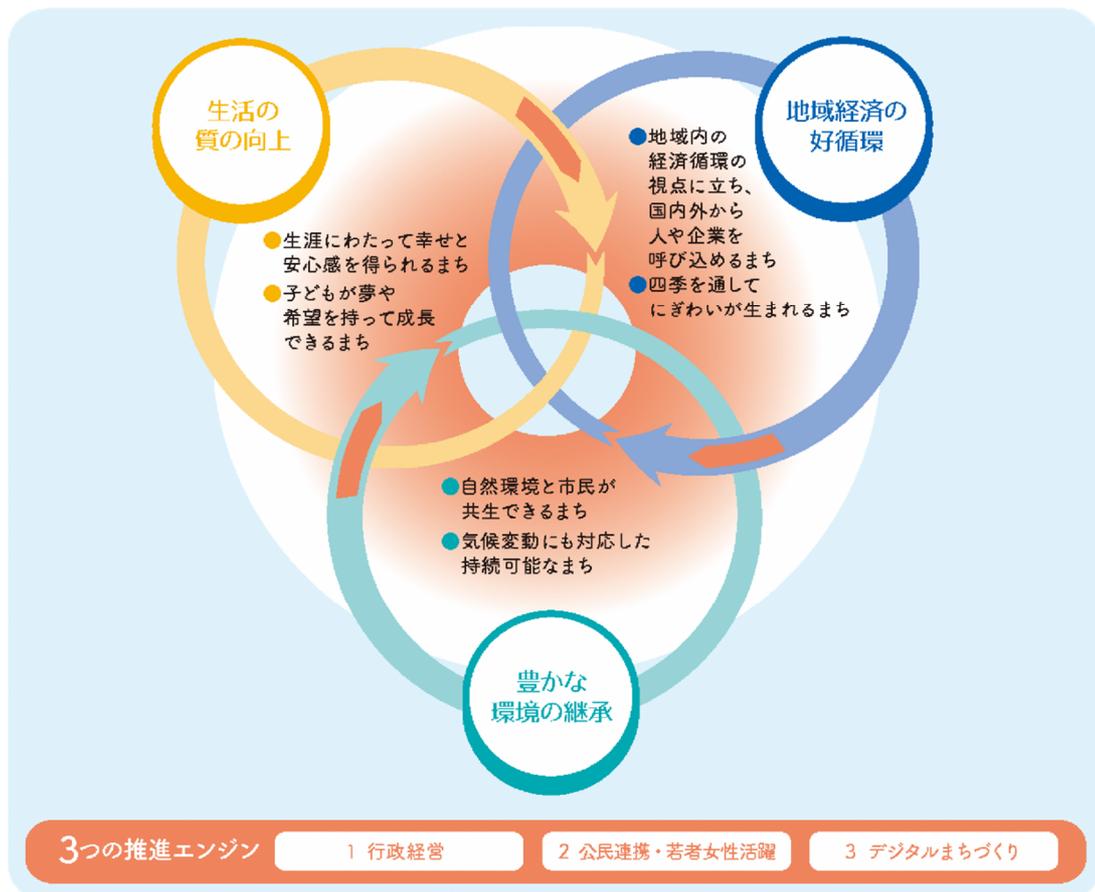


図 1-3 まちづくりの目標と推進エンジン

下水道事業は、市民生活や企業活動を支える取組として、第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」において「下水道整備と適切な維持管理」、「上下水道事業の健全経営」を詳細施策に位置付けており、下水道施設の着実な耐震化や業務の効率化による健全経営などに取り組んでいきます。

第1章 改定の趣旨

1-2 おだわら下水道ビジョンの位置付け

本市は、SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進する地域として、令和元年度に国から「SDGs未来都市」に選定されています。持続可能な開発目標：SDGs (Sustainable Development Goals)は、平成27年に国連サミットにおいて採択され、世界共通の目標である17のゴールと169のターゲットを設定しています。

下水道事業においても、こうしたSDGsの理念を踏まえ、国際社会における共通の目標にも資する取組を進めていきます。



	<p>…水不足や水質の悪化等により引き起こされる飢餓や栄養不足を防ぐため、世界中の全ての人々へ平等に安全な水を確保することを目標としています。本市下水道事業では、下水道の普及を通じて、公共用水域の水質保全に努めていきます。</p>
	<p>…すべての人のために、安く公平に使えることを重視した経済発展と福祉を進めていけるように、質が高く、信頼でき、持続可能な、災害などにも強いインフラをつくることなどを目標としています。本市下水道事業では、施設の地震対策等により安心安全なインフラの構築を進めていきます。</p>
	<p>…今後進んでいく都市化がもたらす課題に対応するため、効率的な都市計画・管理実践を導入し、都市と人間の居住地を包括的、安全、持続可能にすることを目標としています。本市下水道事業では、施設の効率的な維持管理や健全な経営により、市民生活の基盤を維持していきます。</p>
	<p>…今後ますます激しくなるとされている海面上昇や平均気温の上昇等の気候変動に関する災害や自然災害に対応することを目標としています。本市下水道事業では、局地的な豪雨などによる浸水被害のリスク軽減に向けた雨水渠整備に取り組んでいきます。</p>

図 1-4 持続可能な開発目標(SDGs)

3. 小田原市都市計画マスタープランにおける位置付け

平成23年策定の「小田原市都市計画マスタープラン」は目標年次を令和4年とし、都市の目標像を「小田原らしさ(自然・歴史・交通の利便性)を生かし、多様な交流によりにぎわいを生む持続可能なまち」と定め、この実現に向け、土地利用基本方針や都市施設の整備方針など、分野別の方針を掲げています。

下水道は、道路や公園などに並ぶ都市施設として、小田原市都市計画マスタープランに位置付けており、都市の目標像である快適で利便性の高いまち、市民の安全・安心を支えるまちに向けて、整備や耐震化に取り組んでいます。

下水道の整備方針としては、本市を流れる美しい川や海を未来へ引き継ぎ、市民の生活環境を改善するため、污水管渠の整備を計画的に推進するものとしています。また、老朽化が進んだ管路施設については、優先度の高いところから計画的に改築・更新を実施するとともに、重要な管渠の地震対策を進めることとしています。

また、集中豪雨等による市街地における浸水被害のリスク軽減を図るため、計画降雨量に対する流下能力の確保や過去の浸水箇所の改善といった雨水渠の計画的な整備を推進するものとしています。

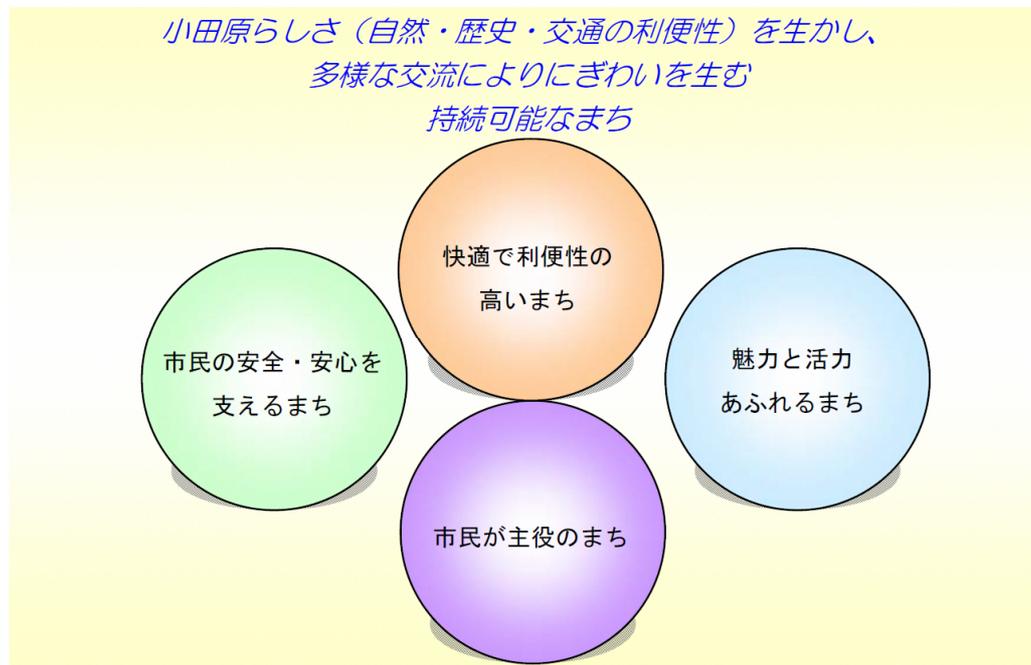


図 1-5 都市の目標像
(出典:「小田原市都市計画マスタープラン」)

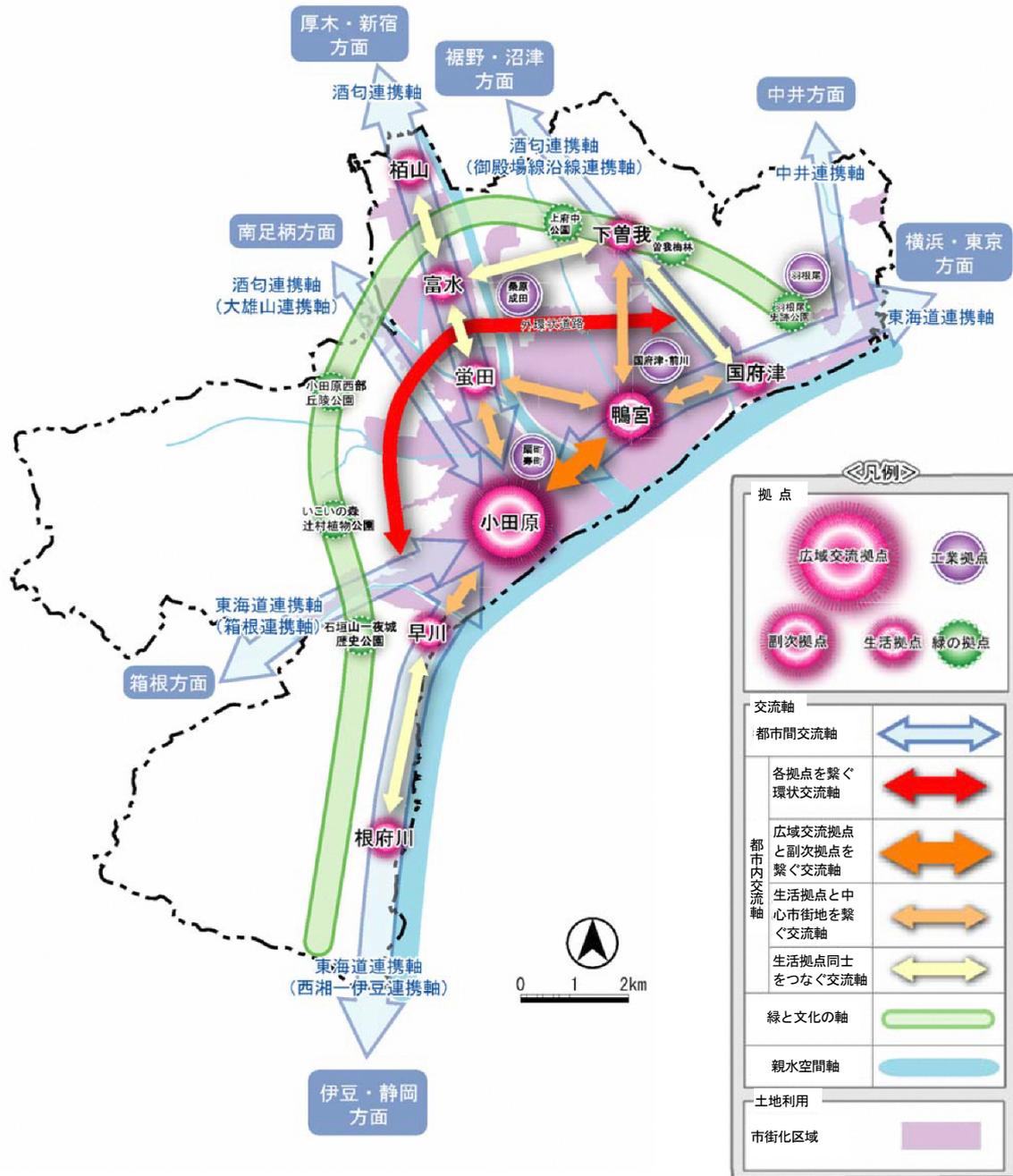


図 1-6 小田原市将来の都市構造図
(出典:「小田原市都市計画マスタープラン」)

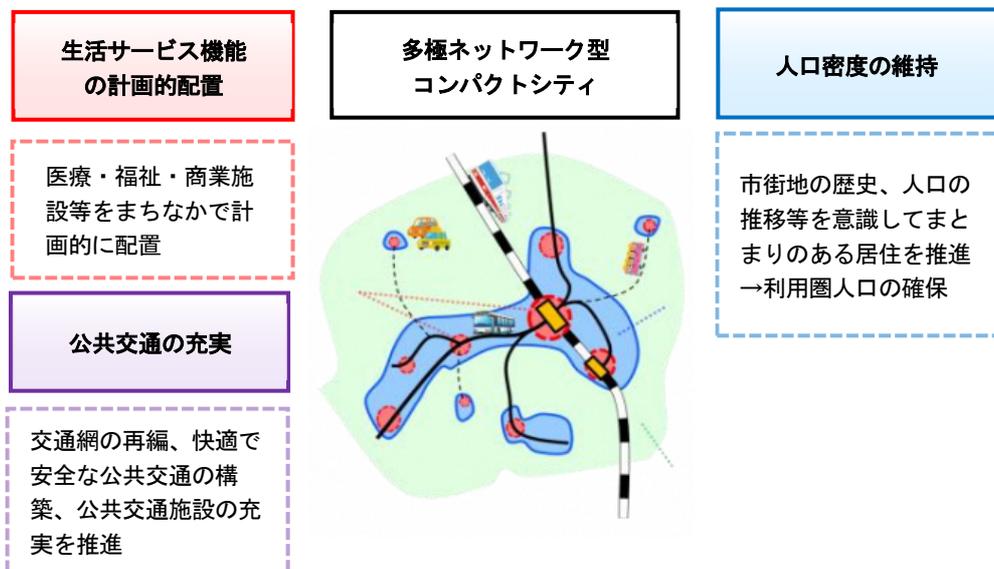
4. コンパクト・プラス・ネットワーク

今後の人口減少・超高齢社会に対応したまちづくりを行政、住民、民間事業者が一体となって取り組むために、都市再生特別措置法による立地適正化計画制度が創設されました。

本市では、今後、少子高齢化・人口減少が見込まれる中、高齢者や子育て世代にとって、健康で快適な生活環境を確保し、持続的な都市経営を推進するため、都市機能誘導区域や居住誘導区域を定め、平成30年度に「小田原市立地適正化計画」を策定しています。

この計画では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えで中心市街地、生活圏を支える各拠点が公共交通により互いに結ばれ、将来にわたって誰もが暮らしやすく、都市の活力が持続的に確保されるよう、時間をかけながら緩やかな誘導を図ることで、公共交通と連携したまちづくりを目指しています。特に小田原駅周辺は県西地域の中核となり、広域的な都市機能を担う拠点として「広域中心拠点」に設定されています。

下水道事業においても、「小田原市立地適正化計画」のコンパクトシティの考え方を踏まえ、小田原駅周辺の都市機能を確保するため、駅周辺を含む第15処理分区を地震対策等の優先順位が高い地区として位置付け、計画的に対策に取り組んでいます。



【立地適正化計画のねらい】

- 医療・福祉・子育て支援・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約し、これらの生活サービスが効率的に提供されるようにすること
- 拠点周辺や公共交通の沿線に居住を誘導し、居住者がこれらの生活サービスを利用できるようにするとともに、一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるようにすること
- 拠点へのアクセス及び拠点間のアクセスを確保するなど、公共交通等の充実を図ること

図 1-7 立地適正化計画のイメージ
(出典:「小田原市立地適正化計画」概要版)

1-3 基本理念・視点・将来像

下水道は、生活環境の改善や公衆衛生の向上などを図るために重要な都市基盤施設であり、下水道を取り巻く社会情勢の変化や多様化する市民ニーズに対応することが必要なため、前ビジョンでは、“未来へつなぐ、暮らしを支える下水道”を基本理念に掲げました。今後も変わらぬ思いで下水道事業を推進していくため、この基本理念を踏襲することとします。

そして、この基本理念に基づき下水道事業を継続していくために、国土交通省が策定した「新下水道ビジョン」と整合を図りながら、「おだわら下水道ビジョン」では「環境」「強靱」「持続」「創造」の4つの視点を設定します。そして、これらの視点ごとに下水道に求められる使命を踏まえ、4つの将来像を掲げるとともに、下水道事業の現状や課題を整理し、将来像の実現に向けた施策を取りまとめます。

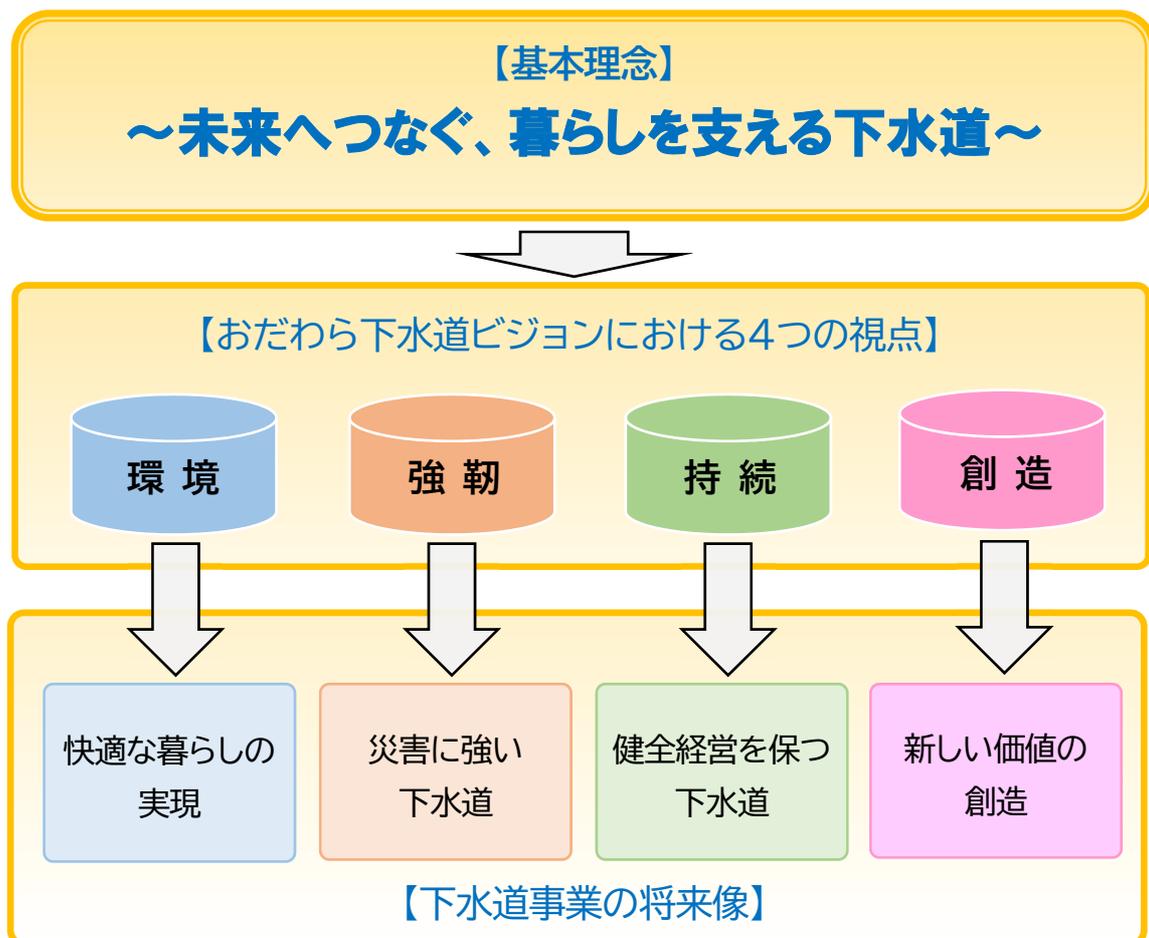


図 1-8 「おだわら下水道ビジョン」の基本理念・視点・将来像